



平成27年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成27年2月13日

上場会社名 株式会社エムアップ 上場取引所 東
 コード番号 3661 URL http://www.m-up.com
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 美藤宏一郎
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 総務経理部長 (氏名) 藤池 季樹 TEL 03-5467-7125
 四半期報告書提出予定日 平成27年2月13日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第3四半期の連結業績（平成26年4月1日～平成26年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第3四半期	2,764	—	467	—	473	—	269	—
26年3月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 27年3月期第3四半期 291百万円 (ー%) 26年3月期第3四半期 一百万円 (ー%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第3四半期	38.53	36.43
26年3月期第3四半期	—	—

(注) 第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成26年3月期第3四半期の数値及び対前年同四半期増減率については記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年3月期第3四半期	2,571	1,747	66.8	244.04
26年3月期	—	—	—	—

(参考) 自己資本 27年3月期第3四半期 1,717百万円 26年3月期 一百万円

(注) 第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成26年3月期の数値については記載しておりません。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	18.00	18.00
27年3月期	—	0.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	20.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

3. 平成27年3月期の連結業績予想（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,142	—	450	—	450	—	270	—	40.00

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、増減率については記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）一、除外 一社（社名）一
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年3月期3Q	7,036,400株	26年3月期	6,967,200株
② 期末自己株式数	27年3月期3Q	86株	26年3月期	86株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	27年3月期3Q	6,984,758株	26年3月期3Q	6,745,297株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、四半期決算短信（添付資料）4ページ「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国の経済は、個人消費などに弱さが残るものの、各種政策の効果が発現し、雇用及び所得環境の改善傾向が続く中で、緩やかに回復していくことが期待されております。一方で、消費者マインドの低下や海外経済の下振れ、地政学的リスクなど景気を下押しする要因も依然として残っており、先行きはなお不透明な状況にあります。

当社を取り巻くインターネット関連市場につきましては、スマートフォンやタブレット端末の利用が拡大するとともに、高速モバイル通信の普及等に伴うインターネットの利用環境の整備も進むなど、今後も安定的な成長が期待されております。

平成25年におけるスマートフォンの所有率は、前年より12.5ポイント増加し62.3%に達するなど、フィーチャーフォンからの移行が着実に進んでおります。また、タブレット端末は、幅広い世代への普及が進み、所有率が26.1%と前年より6.0ポイント増加しております（出所：IDC JAPAN株式会社）。

モバイルコンテンツの市場規模は、平成25年には全体で1兆783億円（前年同期比26.7%増）となり、拡大のペースを加速させております。その中でも、スマートフォン向けコンテンツ市場は、端末の普及と利用者の増加に伴い、8,336億円（前年同期比124.3%増）と前年の2倍を超える市場規模へと急成長しており、モバイルコンテンツ配信市場におけるスマートフォンの位置付けはより重要性を高め、市場は活性化しております（出所：一般社団法人モバイル・コンテンツ・フォーラム）。

eコマース市場においても、モバイルコンテンツ市場と同様に、スマートフォンが牽引役となり市場は拡大しております。平成25年のモバイルコマース市場は、1兆9,359億円（前年同期比29.1%増）と、PCに近い表現力を持ち、時間や場所を選ばずに利用できるスマートフォンの特性によって、利用者数や利用機会と比例して、順調な拡大を続けております（出所：一般社団法人モバイル・コンテンツ・フォーラム）。

このような外部環境の中、当社は、アーティストやタレント、キャラクターまでの様々なコンテンツを幅広く取り扱い、それらをファンクラブサイトやしゃべってキャラ、音楽、電子書籍といった多岐にわたるデジタルコンテンツ配信から、音楽映像商品やグッズ、アパレル商品を取り扱うeコマースに至るまで、複合的に展開することにより、サイトや事業間でのシナジー効果を発揮させ、収益の拡大と多様化に努めてまいりました。

事業の基盤となる有料会員につきましては、流行が予想されるコンテンツのいち早い発掘と獲得、新規サイトの開設に引き続き注力し、会員数の増加を図ってまいりました。スマートフォンへ向けた取り組みといたしましては、スマートフォン向けの新規コンテンツサービスを今後の当社の重要な月額会員制サイトと位置づけ、キャラクターを中心としたコンテンツを積極的に投入し、有料会員数の獲得を進めてまいりました。

また、11月には子会社である株式会社ゆるキャラを通じて、「ゆるキャラグランプリ 2014 in あいち セントレア」を開催いたしました。2014年グランプリには、1,699キャラクターがエントリー、投票数は2,267万票に達するなど、いずれも過去最多を記録し、より一層の話題性と注目を集めるとともに、収益拡大へも貢献いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は2,764百万円、営業利益は467百万円、経常利益は473百万円、四半期純利益は269百万円となりました。

セグメントごとの概要は、以下のとおりであります。

①携帯コンテンツ配信事業

携帯コンテンツ配信事業につきましては、アーティストやタレントの新規ファンクラブサイトの開設に、引き続き取り組んでまいりました。加えて、アニメやキャラクターの積極的な獲得とコンテンツ制作を行い、しゃべってコンシェルなどスマートフォン向けコンテンツサービスを中心に配信することで、事業の基盤となる有料会員の獲得も進めてまいりました。

また、キャリアの提供するスマートフォン向け月額使い放題サービスである、「スゴ得コンテンツ」や「スマートパス」についても、人気キャラクターを中心に積極的なコンテンツの投入を継続してまいりました。中でも、「ゆるキャラグランプリ for スゴ得」及び「ゆるキャラグランプリ for au」においては、グランプリへの投票をサイト内でも受け付けるなど、インターネットとリアルイベントとを融合、連携させるというこれまでにない試みを実施し、利用者ランキングの上位を獲得、収益を拡大させることができました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における携帯コンテンツ配信事業の売上高は2,349百万円、セグメント利益は651百万円となりました。

②PCコンテンツ配信事業

PCコンテンツ配信事業につきましては、アーティスト及びタレント等の有料ファンクラブサイトにおいて、パッケージ商品やコンサートチケットの先行販売などを実施し、会員の維持、拡大を推進してまいりました。また、アーティストやスポーツ選手、歌舞伎俳優のオフィシャルサイトの受託制作など、他の事業セグメントも含め、将来の新たな収益の獲得と拡大に繋がることを見据えた事業展開を行ってまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間におけるPCコンテンツ配信事業の売上高は167百万円、セグメント利益は13百万円となりました。

③eコマース事業

eコマース事業につきましては、CD、DVD及びブルーレイといった音楽映像商品と関連するアーティストグッズを事業の中核に据え、当社がファンクラブサイトを運営するアーティスト等の商品の直販と、大手レコード会社との提携によるレコード会社の公式販売サイトの運営管理の両面から、事業を展開してまいりました。サイト限定やオリジナル商品の取り扱い、購入特典の付与、コンサートチケットの予約抽選といった施策によって、その利用促進を図ってまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間におけるeコマース事業の売上高は205百万円、セグメント利益は45百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

流動資産は1,651百万円となりました。主な内訳は、現金及び預金531百万円、売掛金666百万円、商品199百万円であります。

固定資産は920百万円となりました。主な内訳は、のれん61百万円、投資有価証券423百万円であります。

この結果、総資産は2,571百万円となりました。

(負債の部)

流動負債は801百万円となりました。主な内訳は、買掛金481百万円であります。

固定負債は22百万円となりました。

(純資産の部)

当第3四半期連結会計期間末の純資産は1,747百万円となりました。主な内訳は、資本金215百万円、資本剰余金241百万円、利益剰余金1,354百万円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後における我が国の経済は、緩やかな景気の回復が続くと期待される一方で、足元では消費者マインドの低下とそれに伴う個人消費の弱さが見られ、また海外景気の下振れ、地政学的リスクも懸念されるなど、先行きはなお不透明な状況にあります。

一方で、当社の属するインターネット関連市場につきましては、スマートフォンの普及が一巡し、それに伴ってコンテンツサービスもフィーチャーフォン向けからスマートフォン向けへと軸足が移行するなど、市場は大きな転換点にあり、モバイルビジネスを取り巻く環境は大きく変化することが見込まれております。

こうした事業環境の中、当社は技術及び市場動向の影響を受けにくい、ファンクラブサイトを中心とした公式サイト開設と、それに伴う新規有料会員の獲得を推進しております。また、当社は、運営するフィーチャーフォン向け公式サイトスマートフォンへの対応を完了させており、会員の移行が進んでおります。しかしながら、スマートフォン向けコンテンツ市場はいまだ黎明期にあり、技術革新やサービスの流行と陳腐化の流れは早く、それらを的確に予測することは困難であります。加えて、フィーチャーフォン向けコンテンツ市場については、規模の縮小が継続しており、同業他社においても会員数は減少傾向にあります。当社といたしましては、これまで以上に迅速な事業展開を進めていく方針であります。携帯コンテンツ配信事業の業績予想は、スマートフォンの影響を最大限に加味し、保守的なものとしております。

費用面では、販売に比例し増減するロイヤリティ等や、採用の強化に伴う人材関連費用の増加を見込んでおります。

以上により、平成27年3月期の業績予想については、売上高3,142百万円、営業利益450百万円、経常利益450百万円、当期純利益270百万円を予想しております。

一方で、平成27年3月期第3四半期の連結業績につきましては、売上高2,764百万円、営業利益467百万円、経常利益473百万円、四半期純利益269百万円と、携帯コンテンツ配信事業を中心に事業が順調に拡大しており、当初の業績予想と比較し高い進捗率となっております。特に利益面につきましては、予算に対する進捗率が経常利益ベースで105%に達するなど、第3四半期までで通期の業績予想を達成することができました。

平成27年1月度以降につきましても、売上高及び利益ともに業績は堅調に推移しております。

そのため、現在、これまでの業績動向や第4四半期の見通しを踏まえ、あらためて業績見通しを精査中であり、その策定が完了し次第、業績予想を上方修正いたします。

なお、業績予想につきましては、当社が現在入手している情報、及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

なお、第1四半期連結会計期間より、株式会社ゆるキャラを連結の範囲に含め、四半期連結財務諸表を作成しております。

また、当第3四半期連結会計期間より、新たに設立した株式会社ハンアップを連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

当第3四半期連結会計期間
(平成26年12月31日)

資産の部	
流動資産	
現金及び預金	531,558
売掛金	666,474
商品	199,179
繰延税金資産	55,114
その他	245,077
貸倒引当金	△45,973
流動資産合計	1,651,431
固定資産	
有形固定資産	135,166
無形固定資産	
のれん	61,242
その他	20,163
無形固定資産合計	81,406
投資その他の資産	
投資有価証券	423,071
繰延税金資産	60,909
長期貸付金	36,317
その他	219,908
貸倒引当金	△36,317
投資その他の資産合計	703,890
固定資産合計	920,463
資産合計	2,571,894
負債の部	
流動負債	
買掛金	481,289
未払法人税等	75,273
賞与引当金	12,006
役員賞与引当金	22,500
その他	209,935
流動負債合計	801,005
固定負債	
資産除去債務	11,968
その他	10,959
固定負債合計	22,928
負債合計	823,933
純資産の部	
株主資本	
資本金	215,657
資本剰余金	241,924
利益剰余金	1,354,160
自己株式	△48
株主資本合計	1,811,694
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	△94,560
その他の包括利益累計額合計	△94,560
新株予約権	20,905
少数株主持分	9,921
純資産合計	1,747,960
負債純資産合計	2,571,894

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	2,764,671
売上原価	1,668,505
売上総利益	1,096,165
販売費及び一般管理費	628,493
営業利益	467,672
営業外収益	
受取利息	74
貸倒引当金戻入額	3,853
受取賃貸料	1,475
雑収入	108
営業外収益合計	5,510
営業外費用	
支払利息	22
営業外費用合計	22
経常利益	473,161
税金等調整前四半期純利益	473,161
法人税、住民税及び事業税	192,575
法人税等調整額	4,645
法人税等合計	197,221
少数株主損益調整前四半期純利益	275,939
少数株主利益	6,783
四半期純利益	269,156

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	275,939
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	15,679
その他の包括利益合計	15,679
四半期包括利益	291,619
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	284,836
少数株主に係る四半期包括利益	6,783

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益 計算書計上 額 (注) 3
	携帯 コンテンツ 配信事業	PC コンテンツ 配信事業	eコマース 事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	2,349,424	167,087	205,238	2,721,750	42,920	2,764,671	-	2,764,671
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	18,805	18,805	△18,805	-
計	2,349,424	167,087	205,238	2,721,750	61,725	2,783,476	△18,805	2,764,671
セグメント利益又は 損失 (△)	651,589	13,637	45,418	710,645	△3,678	706,966	△239,293	467,672

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ゆるキャラ®関連の事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△239,293千円には、セグメント間取引消去△15,105千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△224,188千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般経費であります。

3. セグメント利益または損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。